

パレスチナ自治区
ヨルダン川西岸地区における被害を受けた
難民キャンプの復旧支援
最終報告書



2024年12月

株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル(OCG)

The Palestinian Association for Empowerment
and Local Development (REFORM)

目次

はじめに	1
本復旧支援活動の概要.....	1
背景	1
目的	2
実施期間.....	2
復旧支援実施団体の紹介.....	3
パレスチナ問題と難民キャンプとの関係	4
緊急支援物資配布までの歩み	4
支援内容の決定プロセスと成果.....	5
支援内容の決定プロセス	5
支援を受けた人たちの声	5
支援の成果.....	6
収支報告	7
おわりに	8
別添：支援活動の写真.....	9

はじめに

この度は、「ヨルダン川西岸地区における被害を受けた難民キャンプの復旧支援」にご協力いただき、誠にありがとうございました。皆様からの温かいご支援により、ヌール・シャムス難民キャンプにおいて、貯水タンクを破壊された 87 世帯に新しい貯水タンクを無事に配布することができました。本報告書では、復旧支援全体の概要や成果、収支報告を含め、詳細をご報告いたします。

本復旧支援活動の概要



(インフラが破壊されたヌール・シャムス難民キャンプ)

背景

パレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区の難民キャンプでは、他のパレスチナ自治区と同様に、占領下での暮らしを長年強いられており、日常的に軍事侵攻を受けています。そのため、民間人の生活が大きく脅かされ、家屋や公共インフラが破壊されるなど、深刻な被害が発生しています。特に基本的な公共サービスやインフラの老朽化、生活必需品の不足が深刻化しており、住民たちは日々の生活において多大な困難を抱えています。

目的

このような状況を受け、特に暴力に曝されている北部地域にあるヌール・シャムス難民キャンプの人道的な危機を緩和することを目的として、現地のニーズに即した緊急支援を実施することを決定しました。具体的な支援内容は、現地パートナー団体との協議やニーズアセスメントを通じて決定し、住民の最も切実なニーズに応えることを目指しました。



(今でも日常的に侵攻を受けているヌール・シャムス難民キャンプ)

実施期間

2024年5月から10月にかけて、以下の活動を実施しました。

- ファンディング活動（5月～6月）
クラウドファンディングやプラットフォーム外での寄付を通じて、総額 11,055.26 米ドルの支援金。
- 支援内容の最終決定と協議（7月～8月）
パレスチナ現地パートナー団体との協力により、対象住民へのニーズ調査を通して緊急に必要とされる支援内容を詳細にアセスメント。
- 物資の調達と配布（9月～10月）
支援物資の調達および配布を実施。

復旧支援実施団体の紹介

・株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル (OC Global)

株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル (OC Global) は、持続可能な新しい社会の実現を目指す、総合コンサルティング企業です。OC Global の使命は、社員一人ひとりの知識の追求と自己研鑽への情熱を通じて、世界中の人々に安全で豊かな生活を提供することです。OC Global は、国際協力機構 (JICA) の技術協力事業である「パレスチナ難民キャンプ改善プロジェクト (PALCIP)」に参画しており、2017 年よりパレスチナ解放機構 / 難民問題局 (DoRA) へのアドバイザー業務に従事し、DoRA と難民キャンプコミュニティの能力開発を通じてヨルダン川西岸の難民キャンプの生活状況を改善しています。

本復旧支援活動では、主に支援の実施体制構築・進捗管理及びクラウドファンディングの実施を担当しました。

Web ページ : <https://ocglobal.jp>

・ The Palestinian Association for Empowerment and Local Development-REFORM (REFORM)

パレスチナエンパワメント & 地域開発協会 (REFORM) は、パレスチナにおいて、すべての人が効果的に参加する能力を持ち、個人および集団の権利が尊重され、多様性が確保される社会を目指して活動しているパレスチナの現地 NGO です。国際機関をはじめ、様々な団体と協働してきた経験があり、今回ガザにおける戦争が起こってからも、有識者による継続的な情報発信を行っています。

本復旧支援活動では、パレスチナ現地パートナー団体として主にクラウドファンディング広報及び緊急支援物資の調達を担当しました。

Web ページ : <https://reform.ps/>

・ Department of Refugee Affairs, Palestine Liberation Organization (DoRA)

パレスチナ解放機構難民問題局 (DoRA) は、国際協力機構 (JICA) の「パレスチナ難民キャンプ改善プロジェクト (PALCIP)」におけるカウンターパートであり、JICA は日本人専門家を派遣して、難民キャンプ改善のために必要な住民参加や社会的弱者の包摂等に関わる能力強化を DoRA 職員に対して行っています。PALCIP ではこれまでに西岸地区の 9 か所を対象に、難民キャンプ改善計画の策定および、キャンプ改善事業を実施してきました (現在進行中のものを入れると 12 か所)。

本復旧支援活動では、パレスチナ現地パートナー団体として主に難民キャンプ住民との調整と緊急支援物資の配布を担当しました。

Web ページ : <https://dora.plo.ps/>

パレスチナ問題と難民キャンプとの関係

パレスチナ人が 1948 年のアラブ・イスラエル戦争（第一次中東戦争）中に故郷を追われ、土地を奪われてから 76 年、パレスチナ難民は 4 世代以上にわたって、ヨルダン川西岸地区の難民キャンプで老朽化したインフラと基本的な公共サービスの欠如に苦しんできました。難民キャンプは、逆境、そして継続される占領に対する、闘いのシンボルでもあります。また、国連決議や国際法に則ったパレスチナ難民問題の解決も、見通しが立たない状況です。故郷を追われたパレスチナ難民の苦難は、現在進行中の人道危機です。

現在進行中のガザでの戦争は、ヨルダン川西岸地区におけるイスラエル占領政策の強化とともに、パレスチナ人の移動と生活の機会を大幅に制限し、難民の窮状を悪化させています。イスラエル占領下のヨルダン川西岸地区の難民キャンプでも、近年パレスチナ人への暴力がエスカレートしており、ヨルダン川西岸地区の難民キャンプでは、苛酷な軍事作戦によって民間人が犠牲となり、家屋や公共インフラが破壊され、緊急的な人道ニーズが発生し続けています。こうした過酷な状況の中、これらのキャンプにおける多岐にわたる援助、インフラの修復・再建が緊急に必要な状態でした。

緊急支援物資配布までの歩み

2024 年 5 月 27 日～6 月 21 日

株式会社奇兵隊が運営していたクラウドファンディングプラットフォーム Airfunding でのファンディングキャンペーンを中心に寄付を募集。

<達成金額>

- ① 7,617.00 米ドル（Airfunding 内での寄付）
- ② 3,438.26 米ドル（Airfunding 外での寄付）

合計：11055.26 米ドル

2024 年 6 月末～8 月末

- 日本からパレスチナへの送金手続き
- 現地パートナー団体である REFORM、DoRA と支援体制に関する協議の実施
- 支援内容の検討と決定

2024 年 9 月 3 日

日本からパレスチナへ送金した分が無事全額着金

※パレスチナの現地情勢の悪化により送金手続きが難航したことで、時間を要しました。

2024年9月4日～10月13日

- 現地でのニーズアセスメント
- 支援物資再検討のための現地パートナー団体との協議、支援対象者の選定
- 購買業者への公示及び選定（4社が応札）
- 購買業者との契約締結

2024年10月14日

貯水タンク到着、配布の実施

※当日はヌール・シャムス難民キャンプの代表者、DoRA、RERORMの立ち合いのもと、キャンプ住民の協力により物資の配布が行われました。

支援内容の決定プロセスと成果

支援内容の決定プロセス

当初、皆さまからいただいたご寄付は、破壊された建物の修理や負傷者への応急処置のために充てさせていただくことを予定しておりました。しかし、刻一刻と状況が変化する中、被害状況や必要とされる支援の内容を都度確認し、現地のニーズに合わせて支援物資の内容を決定しました。

現地でのニーズアセスメントや協議を経て、OC Globalも適切な支援内容かを確認しました。救急キットや食料なども候補に挙がりましたが、公平性、そしてより多くの人に裨益につながるという観点から、最終的に貯水タンクを壊された世帯へ配布することを決定しました。こういった協議や決定のプロセスにおいて、現地の人々がイニシアティブを取り、自分たちの力で民主的な決定ができるよう、OC Global、REFORMとDoRAはサポートの立場で関わりました。

支援を受けた人たちの声

現地で貯水タンクを受け取った人々の声を一部ご紹介いたします。

※インタビューはDoRAのスタッフによって実施されました。

Q.なぜこれらのタンクが（緊急支援物資として）必要だったのでしょうか？

—「古いタンクは、軍の度重なる侵攻の際に破壊されました。彼らは私たちを追い詰め、この場所から立ち退かせるために、意図的に生活の糧の一つである貯水タンクを狙って攻撃していたのです。新しいタンクのおかげで、私たちは生き延びることができています。」
(ラーファットさん)

Q.タンクが使えなくなってしまったのでどのような影響がありましたか？

ー「タンクが破壊されてしまったので、私たちは遠く離れた場所まで水を汲みに行かなければならず、それによってただでさえ大変な生活の中で日々の苦しみが増加しました。安定して水を確保できない生活は、とてもストレスのかかるものでした。」(マルワンさん)

ー「タンクが使えなくなったときは、水の確保がとても難しくなり、毎日法外な価格を払って水を買いに行くしかありませんでした。」(アミラさん)

Q.新しいタンクを受け取った後、あなたの生活にどのような変化がありましたか？

ー「新しいタンクのおかげで、水を安定的に確保することができるようになり、生活がより楽になりました。(わざわざ遠くから生活用の)水を運んだり、水をボトルに詰めて持ち帰ったりする必要がなくなったからです。」(サーメルさん)

ー「新しいタンクのおかげで、私たちは日常的に水を貯められるようになり、生活が安定しました。私たちは、自分たちをここから追い出そうとするあらゆる(妨害の)試みにも拘らず、ここに住み続け、生き延びることができています。」(イプティサムさん)

また、「ヌール・シャムスにおける私たちへのご尽力、特に攻撃で被害を受けたものの支援は、決して忘れることのない支援です。支援してくださる皆さまに感謝します」「私たちが最も必要としていた時に、攻撃で被害を受けたものの修理を支援していただき、この寛大な行為に感謝いたします」などの感謝の声が寄せられました。特にウクライナやガザなどの危機の陰で注目されにくい状況であったため、この支援はとても有難かったという声が聞かれました。

支援の成果

今回の復旧支援活動では、貯水タンクを破壊された 87 世帯に新しい貯水タンクを配布し、ヌール・シャムス難民キャンプの住民の水の確保に関する問題の緩和に努めました。これにより、緊急人道支援ニーズに寄与できたと考えております。

また、支援のプロセスを通じて、キャンプ住民が主体的に参加し、コミュニティの協力度体制が強化されました。配布の際には、透明性と公平性を重視し、キャンプ住民からの理解と協力を得ながら進めることができました。

収支報告

収入		
費目	金額 (米ドル)	備考
クラウドファンディング	7,617.00	Airfunding
一般寄付	3,438.26	
合計	11,055.26	

支出		
費目	金額 (米ドル)	備考
プラットフォーム利用手数料	380.85	Airfunding
送金手数料	318.39	米銀行経由
貯水タンク購入費	10153.80	貯水タンク 87 個
ビデオ作成費	200.00	クラウドファンディングキャンペーン用
管理費	2.22	REFORM の事務手数料
合計	11055.26	

差引収支	0.00
------	------

おわりに

この度の復旧支援活動は、皆さまからの温かいご支援とご協力のおかげで実現することができました。ヌール・シャムス難民キャンプの住民の皆さんが、少しでも安心して生活できる環境を取り戻す一助となれていればと思います。

パレスチナの難民キャンプにおける状況は依然として厳しい状況です。引き続き皆さまの温かいご関心が、現地の人たちの励みになります。

改めまして、皆さまのご理解とご協力を、心より感謝申し上げます。

※なお、本文中の写真は全て DoRA のスタッフによって撮影・提供されました。

お問い合わせ先

株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル 都市地域開発部

担当 山村：yamamura-y@ocglobal.jp

別添：支援活動の写真



届いた貯水タンクを並べるのも一苦労。



ボランティアの配布スタッフが受益者リストを真剣に確認している。



購入した貯水タンクをトラックから下ろしている。



配布を待つ貯水タンク
(壊れにくい新しいモデルのもの)。



ボランティアスタッフが配布のプロセスについて話し合っている。
日常的に起こっていることだが、この日も配布中にキャンプに対するドローン攻撃があり、安全上の理由から一時、配布の中断を余儀なくされた。



裨益者の家に向かう貯水タンクを載せた車。



配布の後、ご家庭の屋根に設置された貯水タンク。

